

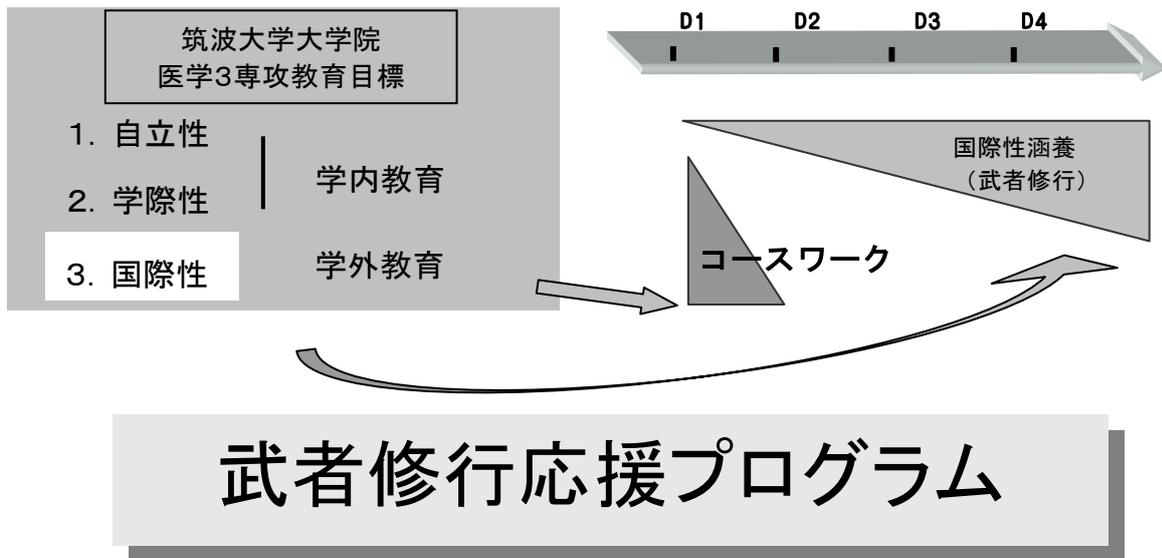
平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	筑波大学	整理番号	c002
1. 申請分野(系)	医療系		
2. 教育プログラムの名称	世界基準を体感する武者修行応援プログラム		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 基礎医学、社会医学、内科系臨床医学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (医化学一般、病態医化学、環境生理学、健康科学、内科学一般)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 人間総合科学研究科 分子情報・生体統御医学専攻[博士課程(一貫制)]	研究科長(取組代表者)の氏名 後藤 勝年	
	(その他関連する研究科・専攻名) 人間総合科学研究科・先端応用医学専攻[博士課程(一貫制)] 人間総合科学研究科・社会環境医学専攻[博士課程(一貫制)]		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>筑波大学は、「開かれた大学」と「国際性の涵養」という理念のもとに、教育・研究活動を展開している。医学部門では、「産・官」に開かれた教育実践により、研究者はもとより、研究者マインドを持った医療従事者、高度医学教育を受けた企業人、また、国民のニーズに対応できる行政人材などの育成を行っている。</p> <p>本事業は、世界基準で活躍する医学領域の研究者に必須の要素である国際性を、大学院生に早期に身に付けさせる点を中心的な目標にした取組である。この目標に対して、これまでの大学院教育研究の実質化の努力を基盤に、また、本学中期計画にもとづいたさらなる実質化の実践により、戦略的に取り組むものである。</p> <p>本取組実施のための経費、教育環境の整備、関連規則の見直し、人的資源配置等に関しては、可能な限り積極的な措置を行い、大学として本取組の目的達成を全面的に支援する。</p>			

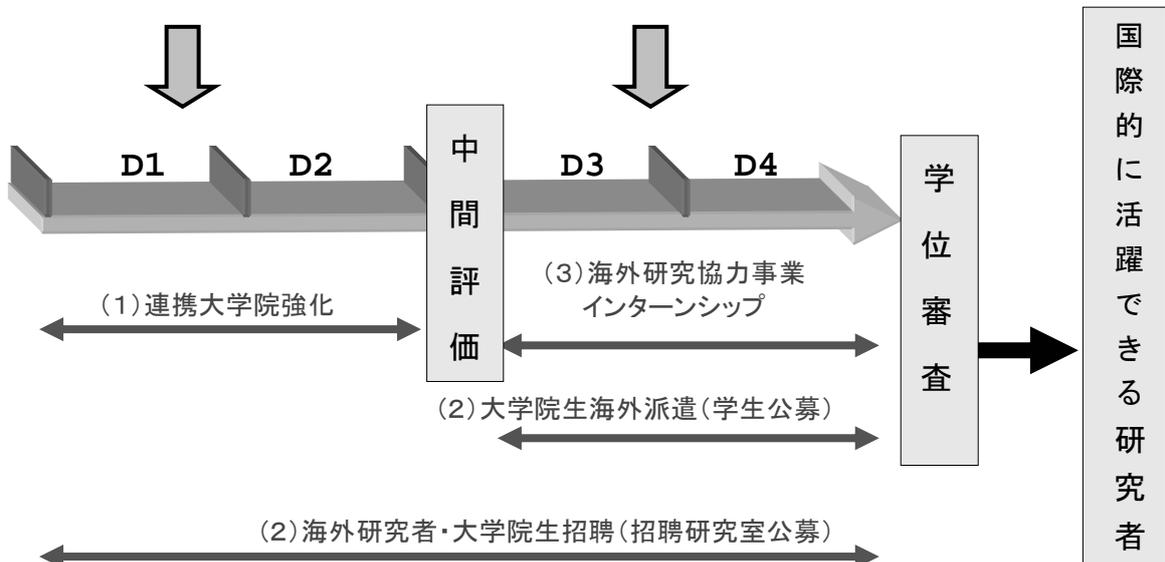
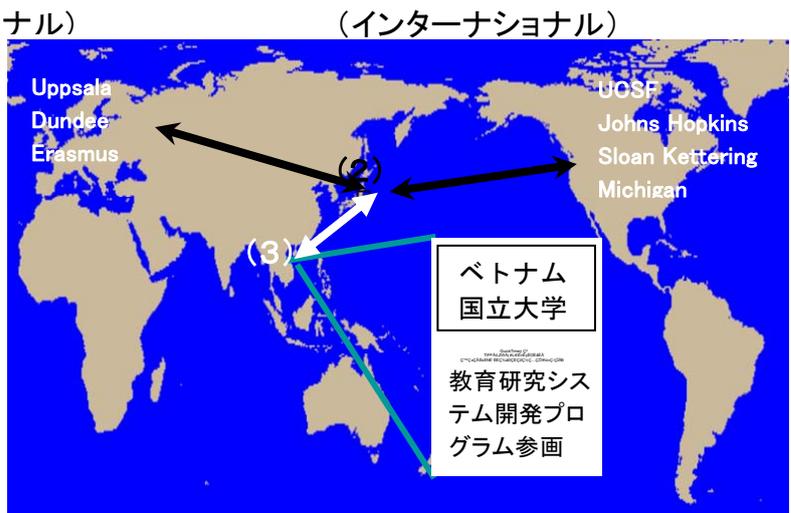
機 関 名	筑波大学	整理番号	c002
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>本研究科医学系専攻は、これまで高い水準の研究活動を維持し、また、教育課程の実質化を推進してきた。例えば、基礎・臨床・社会医学の各分野を広く理解させる目的で、専攻の枠を外した単位取得を可能とし、境界分野での融合的な教育を促進している。少人数での講義を基本とする一方で、年間 100 回を超す大学院セミナーが行われている。単位認定は、授業担当教員の報告のもとに各専攻長が行い、学生への公平性の確保と教員の教育実務への参加意識を喚起している。</p> <p>教授選考に関しては、完全公募制と公開講演会方式を採用している。また、基礎及び臨床研究の成果や社会貢献の視野からの教員の個人評価システムの試験的運用を開始している。</p> <p>大学院生に対しては、厳正な公開中間評価会を実施しており、また、複数教員指導制を確立している。大学院の定員充足率は概ね 130%程度であり、学位授与の要件として一流科学誌での研究成果公表を強く推奨し、ハードルを高める中で、学位授与率は概ね 80%を超えている。また、優秀論文賞等により、学生の活動を顕彰している。連携大学院システムが充実しており、8カ所の連携拠点における18名の客員教授・助教授により、産・官の研究現場を体感する教育が進められている。また、TA・RA制度により大学院生に教育研究実務を体験させている。共通実験室の整備を進めており、大学院生オフィスの近代化も行われている。以上のような取組は、外部からの評価も高い。</p> <p>本申請に参画している分子情報・生体統御医学専攻と社会環境医学専攻は、それぞれ平成13年度に文部科学省教育拠点COEに選ばれた実績を持つ。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>本事業は、世界基準で活躍する医学領域研究者に必須の要素である国際性を、大学院生に早期に身に付けさせる点を中心とした取組である。本申請専攻群は、これまでも教育実質化に努力を傾注してきており、また、中期計画に基づくさらなる実質化の実践にも取り組んでいる。</p> <p>本事業のテーマは、以下に述べる3項目の独創的な教育研究の取組の推進を通して、自立性、国際性、国際性に富んだ大学院生の育成を図ることである。すなわち、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 連携大学院を活用した開放性・自立性・流動性を涵養する大学院教育研究の推進 2) 世界の先端医学研究を体感する国際化プログラムの推進 3) 開発途上国における医学教育研究システム開発参画プログラムの推進 <p>1) は、大学院生が連携大学院拠点においてインターンシップ教育研究を受けるという独創的なプログラムである。大学院 1-2 年次生を中心にプログラムを実施し、これらに単位を与える。このプログラムを通じて、知識の交流を進めるのみならず、大学院生に産・官の研究実体を学ばせ、社会のニーズを理解する機会を与える。また、キャリアパス選択肢の可能性を広げ、流動性を促進する。2) では、大学院生を共同研究、調査、実習などのために各国先進医療・研究施設および企業に派遣し、世界最先端の研究情報の収集に努めさせる。3) は、医学領域の開発途上地域にありながら教育研究の発展促進を計画している開発途上国において、新たな医学関連の教育研究システムを構築するプロセスに、実働する教員とともに大学院生を参画させるという新奇性に富んだプログラムである。</p> <p>本事業では、相手国(相手大学)の要請により、本学の支援を受けるべくすでに調査を開始しているベトナムのホー・チ・ミン市のベトナム国立大学を対象とする。</p>			

6. 履修プロセスの概念図



1) 連携大学院制度の実績とさらなる強化

2) 3) 海外研究交流促進



機 関 名	筑波大学	整理番号	c002
<p data-bbox="165 199 588 232">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 295 1428 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 490 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 535 1428 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 629 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 678 1428 855">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 918 633 952">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="172 967 1428 1144" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="172 967 1428 1046">・これまでの実績に立脚し、若手研究者としての大学院生を国際的な視野から育成するユニークな優れたプロジェクトである。 <li data-bbox="172 1061 1428 1144">・国外の受け入れ機関（特に途上国）における指導体制、サポート体制および資金面での支援を具体化する必要がある。 			